

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: <http://www.konbukuroike.com>

2026 年 8 月

第 148 号

主な予定

8 月 4 日 (火)

14:30~15:00

柏の葉しぜんあそびの会

10 月 16 日 (金)

10:15~11:40

千葉シニア自然大学

7 月 11 日 (土) 夜の昆虫観察会

石井 尚登

開催時間 : 19:00~21:00

開催場所 : こんぶくろ池自然博物公園内

天候 : 晴れ

参加者 : 15 組 31 名 (応募者 65 組 134 名から抽選にて決定)

千葉県昆虫談話会より、斉藤明子氏、渡辺弘氏、斉藤洋一氏が講師として参加されました。

当 NPO からスタッフとして 16 名が参加

🔍 夜の昆虫観察会について

夜の昆虫観察会も今年で 8 回目となる人気のイベントです。2019 年に初めて開催され毎年行われてきたイベントです。小学生を中心に応募を募っていましたが今年から大人だけの参加も可能とし応募者 65 組の中から 15 組が抽選で選ばれました。

スタッフより参加者に注意事項等の説明を行った後、こんぶくろ池公園内を 2 組に分かれて散策し昆虫の観察をしながら昆虫を捕獲して歩き、最後にライトトラップに集まった昆虫達を観察し捕獲し、全員で管理棟前の藤棚の下で捕獲した昆虫の名前を確認し、どれだけの昆虫がいたかを確認して終了となります。

捕獲した虫は、観察会終了後に NPO スタッフが森の中に戻しました。

🔍 夜の昆虫観察会の様子

当 NPO スタッフより虫かごと虫眼鏡を持ちヘッドライト等の明かりを頼りに、2 つの班に分かれてこんぶくろ池公園の中を散策に出発します。今年も新月(月齢)での開催とすべく少し早い時期の開催となりましたので、セミの羽化などに巡り合うことはありませんでしたが、カマキリやナナフシモドキ等を採取する子供たちが見受けられました。昆虫を採取するときに容器をくださいと元気に叫ぶ子供たちを見ているとワクワク感がとまりません。

参加者の急遽のご都合で保護者が管理棟に待機し 11 歳のお子さんが 1 人参加ということになりましたが、当 NPO スタッフで年齢的



観察会出発前の注意事項等の説明風景



ライトトラップに集まった昆虫の採取風景

に近いスタッフが付き添う形でご案内したことも話題の一つでした。

夜の草むらでススキの葉に留まっているカマキリを見つけて捕まえようとして逃げられさらに追いかける子供たちの生き生きした表情は素晴らしかった。

ライトトラップに集まるのは虫だけではなくお子さんも一緒です。昆虫を追いかけて子供達も集まってきます。今年は、時期的に少し早い開催であったこともありコガネムシ等の昆虫の集まりが少なかったですが、ライトトラップを実際に体験された保護者の方がお子さんに虫は光に集まってくるよと説明している姿を見ると毎年続けてきて良かったと思える一コマでした。

最後に参加されたお子さん達に NPO メンバーが育てたクワガタ虫をプレゼントして夜の昆虫観察会を終了いたしました。

参加者の声（アンケートより抜粋）

- 虫を採集するのが楽しかった
- 普段は虫が苦手なのですが、こんぶくろ池の自然と触れ合う体験をしたくて親子で参加させていただきました。ライトの光を月の光と勘違いして虫たちが寄ってくることや、集まってきた虫をじっくりと観察するととても可愛い表情があることや、スタッフの方や参加していた子どもたちが生き生きと虫のことを語っている様子がとても印象的でした。貴重な体験をさせていただき、とてもありがたく思っています。
- いろんな虫が見られて嬉しかった。とても楽しかったみたいで帰りの車の中でも観察会の話を興奮しながらずっと話していました



採取した虫の昆虫合わせの風景

・ 夜に昆虫観察をしたことがなかったので色々な虫に出会えてとても良かったです。夜間にたくさんの昆虫を観察できると考えて参加させていただきました。スタッフの方も、参加者の方も多く、安心して参加できました。息子が初めてナナフシをみつけたと、とても喜んでいました。ありがとうございました。

・ 充実した時間を過ごさせていただきました。カマキリの目の色が夜は暗くなること、虫取り網は下から掬うように使うこと、ナナフシモド

キはほとんどメスであること、子供が覚えたことを話しながら楽しそうに眠りにつきました。

- ・ 何の虫だろう？で終わるところを、先生や詳しいお子さんが沢山いて、楽しく参加できました。
- ・ 時間帯が夜でしたので、昼間には見つけられないような昆虫を目にすることができました。また、ライトトラップも初体験でしたので、それも大いに楽しませていただきました。ご準備いただいた皆様にお礼を申し上げます。

🔍 スタッフの声

- ・ ライトトラップに後から着いた時には寂しい状態で子ども達には物足りなかったのではと気の毒でした。
- ・ ライトトラップの虫を全員が見られるよう、2箇所設ける、ライトトラップには全員で行く等、なんらかの方法はないのかなと思いました。

こんぶくろ池自然博物公園 「夜の昆虫観察会」 2026年記録			
動物界 節足動物門 昆虫綱			
チョウ目		コウチュウ目	
タテハチョウ科	アカボシゴマダラ	オサムシ科	ニワハンミョウ
ヤガ科	オオシマカラスヨトウ		トウキョウヒメハンミョウ
	キシタバ		ゴミムシのなかま
	コシロシタバ	ハネカクシ科	オオヒラタシデムシ
メイガ科	トビイロフタスジシマメイガ	コガネムシ科	コフキコガネ
カマキリ目			ヒロウドコガネ
カマキリ科	オオカマキリ		クロコガネ
バッタ目			ドウガネブイブイ
バッタ科	イナゴのなかま		アオドウガネ
	ツチイナゴ		カナブン
	トノサマバッタ	クワガタムシ科	ノコギリクワガタ
	ショウリョウバッタ	コクワガタ	
コオロギ科	エンマコウロギ	コメツキムシ科	コメツキムシのなかま
カマドウマ科	カマドウマ	ゴミムシダマシ科	キマワリ
キリギリス科	キリギリスのなかま	ゲシキスイ科	オオクチキムシ
	ヤブキリ		ヨツボシゲシキスイ
ナナフシ目		テントウムシ科	ナミテントウ
ナナフシ科	ナナフシモドキ	ゾウムシ科	シロコブゾウムシ
ハサミムシ目		カミキリムシ科	アカアシオアオカミキリ
ハサミムシ科	ハサミムシのなかま		クワカミキリ
カメムシ目		タマムシ科	タマムシ
セミ科	ヒグラシ	ハムシ科	イチモンジカメノコハムシ幼虫
	ニイニイゼミ	ハエ目	
アワフキムシ科	アワフキムシのなかま	ムシヒキアブ科	シオヤアブ
ヨコバイ科	ヨコバイのなかま	ゴキブリ目	
ハゴロモ科	チュウゴクアミガサハゴロモ	ゴキブリ科	ヤマトゴキブリ
ミミズク科	ミミズク	チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ
ツノカメムシ科	エサキモンキツノカメムシ		
オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ	動物界 節足動物門 クモガタ綱	
カメムシ科	ミナミアオカメムシ	クモ目	
トンボ目		コガネグモ科	コガネグモ
イトトンボ科	アオモンイトトンボ	ザトウムシ目	
トンボ科	ウスバキトンボ	ザトウムシのなかま	
カゲロウ目			
カゲロウのなかま		動物界 軟体動物門 腹足綱	
アミメカゲロウ目		有肺目	
カマキリモドキ科	ヒメカマキリモドキ	ナンバンマイマイ科	ヒダリマキマイマイ

・ 大人向けの昆虫観察会もしくは植物観察会などはいかがでしょうか。あ、これ行きたい！と思っても親子向けのことが多く、がっかりすることが多々あります。

・ セミの羽化やカラスウリの開花などがまだでした。今年の月齢のタイミング（次回の適期はお盆）などで7/11 としましたが、月齢を前提にもう少し幅広い選択肢を提示すべきだったと思います。

柏市内小学3年生の校外学習による来園の報告

中川 望

柏市では、こんぶくろ池自然博物公園（以下「当園」とします）を、小中学生をはじめとする市民の皆様の「環境教育の場」と位置付けており、当NPOも事業目的の一つとして「自然環境の大切さ等を理解出来る環境教育などの啓発事業」を掲げています。この取り組みの一環として、毎年春から初夏にかけて柏市内小学校が実施する小学3年生の校外学習の訪問先の1つとして、当園を選ばれた小学校の来園を受け入れています。来園児童に対する園内ガイドは、当NPO会員が担当しています。因みに2017年度以降の来園校数及び来園者数（児童＋引率の先生方）は、下記の通りです。

年度	来園申込校数 （＊1）	来園者数 （＊2）	小学校名	備考
2017	4	476	十余二・柏第五・酒井根・旭	
2018	4	410	十余二・西原・酒井根・柏第四	
2019	5	469	柏第五・酒井根・旭東・土・柏第四	
2020	2	246	柏第一・十余二	コロナ禍のため来園校数減少。
2021	7	575	十余二・松葉第一（＊3）・土・ 柏第四・旭東・松葉第二・柏第六	（＊3）コロナ禍のため校外学習を中止。
2022	8	890	十余二・柏第四・増尾西・松葉第一 土・柏第六・柏第五・柏第三（＊4）	（＊4）炎暑による熱中症発症防止のため当園来園を中止。
2023	9	975	十余二・柏第四・柏第七・増尾西 土・松葉第一・柏第二・高田 柏第五	
2024	10	998	十余二・旭東（＊5）・柏第六・ 富勢・柏の葉・柏第四・柏第七・ 藤心・松葉第一・柏第五	（＊5）悪天候のため当園来園を中止。
2025	10	811	十余二・大津ヶ丘第一・旭東（＊6） 富勢・柏の葉・柏第四・柏第五（＊6） 松葉第一・増尾西・高柳西	（＊6）悪天候のため当園来園を中止。
2026	9	562	十余二・大津ヶ丘第一・藤心・増尾西 ・松葉第一・手賀東・大津ヶ丘第二・ 富勢・旭東	

（＊1）申込後に校外学習や当園来園が中止になった小学校も含めています。

（＊2）当園来園中止校を除いた来園者実人数です。

今年の来園校数は9校とここ数年とほぼ同数でしたが、比較的児童数の少ない小学校が多かったため、来園者数はやや少なめでした。

さて、今年の大きなトピックスは、“当園正面入口横に大型バスも駐車可能な大きな駐車場が開設”されたことです。昨年までは、徒歩15～20分離れた県立柏の葉公園駐車場に大型バスを駐車し、暑い日であってもそこから当園まで徒歩で往復する必要があり、これが児童たち

及び引率の先生方の大きな負担になっていました。今年から“バスを降りたところが当園の隣”となったことで、懸案の大きな課題が解決したわけです。

また、今年は昨年と比較して気温が低めであったためか、ハチの行動もそれほど活発化せず、事前のハチ営巣防止対策の実施効果もあり、ハチに悩まされることはほとんどありませんでした。さらに、園内ガイドとして延べ62名の会員が参加し、児童たちの安全確保に万全の体制がとれたことも大きかったと思われます。この園内ガイドに、今年新たに7名の会員が加わり、今後のガイド数の増加につながるものと嬉しく思っています。

時間の制約があるため、園内の一部しか案内できませんでしたが、児童たちは自然環境を満喫してくれたようでした。生憎の降雨のため、雨中での園内見学となってしまった小学校もありましたが、雨にも負けず楽しそうに園内見学してくれていました。

最後になりますが、今年引率くださいました先生方より“当園正面入口横駐車場が利用できることのメリット”についての情報が他校の先生方にも広がり、来年はより多くの小学校が当園に来園されるようになることを期待しています。



マツの仲間なのにヒマラヤスギ

橋本谷 弘司



ヒマラヤスギの樹形

当園の一号近隣公園エリアにヒマラヤスギの大木が2本あります。戦争遺跡の一つである秋水燃料庫（2号基）近くのヒマラヤスギは幹周が361cm余りあります。環境省では、胸高（1.3m）の位置での幹周が300cm以上のものを巨樹と呼んでいますので、まさしく巨樹であり当園で一番大きな木になります。直径に換算すると115cmです。

もう1本は散策路のそばにあり幹周318cm余りあり、こちらも巨樹です。

ヒマラヤスギの原産地はヒマラヤ山脈周辺で1897年ごろに日本に入ってきた時に、スギに似ていることからヒマラヤスギと名付けられました。その後、国際的な統一名称であるラテン語による学名（*Cedrus deodara*）が付けられ、マツ科に分類されました。

スギとマツの共通点は針葉樹ですが、改めて葉の形を比べて見ると違いが分かります。

一度名付けられ、親しみがわき定着すると、科名が「マツ」だからと言って名称を変える機運がおきなかったのでしょう。

ヒマラヤスギの花は10～11月頃、雄花と雌花は一つの木に別々に咲きます。雄花は4cm程度の大きさですが、雌花は5mm程度と小さくて高いところに上向きに咲くため確認するのが困難ですが、翌年の10～11月頃には7cm程度の球果（松ぼっくり）になります。熟すと、芯から鱗片が外れバラバラと散ってゆき、最後にバラのような形の先端部だけがポロッと落ちます。この球果はクリスマスツリーの飾りなどに利用されています。



ヒマラヤスギ幹周の寸法



ヒマラヤスギの葉※



アカマツの葉※



スギの葉



ヒマラヤスギの雄花※



ヒマラヤスギの球果※



熟して落ちた球果※

※印の写真は小石川植物園で撮影しました。

編集後記

現在柏市環境政策課と、こんぶくろ池自然博物公園を「自然共生サイト」に登録できないか相談しています。

自然共生サイトが創設された背景には、地球規模の生物多様性の危機に対抗するため、2030年までに陸と海の30%以上を保全する国際目標「30by30（サーティ・バイ・サーティ）」が採択され、日本も国家公約として掲げたことにあります。しかし、従来の国立公園などの法的保護地域だけでは面積の達成が困難であるため、民間の取り組みによって結果的に生物多様性が守られている地域を「OECM」として国際登録する流れが世界で加速し、日本でも2023年に「自然共生サイト」の認定制度が開始され、2025年4月には「地域生物多様性増進法」によって法的に強く位置づけられました。

柏市内ではすでに、伝統的な里山・農業景観に根ざした生態系を残す「下田の杜」が認定されていますが、こんぶくろ池自然博物公園が新たに登録を目指すことで、手賀沼の現存する唯一の自然水源という独自の湧水環境や、ズミやヌマガヤ、オオタカといった希少な動植物が息づく生態学的価値が、国のお墨付きによって科学的・客観的な評価を受けることになります。

これは、環境教育の場としての信頼性をさらに高め、未来の保全の担い手を育てる持続可能な循環を生み出します。さらに、柏市内に性質の異なる2つの国認定拠点がそろうことで、市全体の生態系ネットワークが強靱であることを証明し、都市と自然が高度に共生する「環境都市・柏」のブランドを国内外へ発信する強力な原動力となると考えています。（萩原秀夫）